

あ　　る
O W L

Treasure every meeting as it's chance
to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 37

古来の築城法とは大いに違う 幾何学形の城、「五稜郭」。 西洋式城郭の辿った歴史とは？

西洋式城郭

江戸時代末期、北辺の防備のために建てられた五稜郭。築城工事は一八五七（安政四）年に始まり、一八六六（慶応二）年に完成した五角形の西洋式城郭だ。

現在は箱館戦争の遺構として北海道遺産にも登録され、特別史跡として国の指定も受けている。郭内には箱館奉行所が建てられていたが一八七二（明治四）年に解体され、約一四〇年後の二〇一〇（平成二十二）年にその姿が復元されている。

なぜ五角形にしたのかというと、守備の死角を無くするためだとか。築城様式の世界では、稜堡式城郭と呼んでいる。当時の正式名称は「亀田御役所土塁」「柳野城」とも呼ばれた。

この五稜郭は、どういった理由で造られたのだろうか？

建造の理由

一八五四（嘉永七）年、江戸幕府はアメリカ政府と日米和親条約を締結した。この条約の締結によって、幕府は箱館と下田を開港し、鎖国体制は崩壊してしまった。そこで、防衛力を強化しようと第一三代将軍・徳川家定の命により造られたのが五稜郭で、北方警備の役割を担う箱館奉行所の役所として建てられた城郭であった。

もともと箱館奉行所は開港当時、港と町を一望できる箱館山のふもとにあり、箱館に入港する船舶からも良く見えた。ということは、港に出入りする外国の軍艦の格好の標的になるような場所に奉行所は建って

いたのだ。そこで、箱館奉行所の移転が検討されることになった。

時代遅れの築城法

設計担当者は洋式軍学者の武田斐三郎^{あやさふさう}。彼は一六世紀から一七世紀のヨーロッパの城塞都市をモデルに五稜郭を設計した。

中世までヨーロッパの城は、石積みの高い城壁を築いていたが、大砲や銃など火器の発達により、その城壁が格好の攻撃目標になったため、低くて厚みのある土塁へと変化していった。さらにナポレオン戦争（一七九九〜一八一五年）以後、戦争のスタイルは野戦が主となり、城を巡る攻防は行われなくなっていた。

時代とともに戦闘の形も変化し、攻めて来る敵に十字砲火を浴びせられるよう、星型五角形にしたという五稜郭のスタイルは、二世紀ほど前の築城法であり、七万四九〇坪（約二四万七四六六平方

メートル）の広さは、本来その五倍の面積で構築しなければ、機能を十分に發揮できない大要塞仕様のお城だった。

場所は海岸線からおおよそ三キロ離れ、砂丘にさえぎられた亀田村の柳野という低い土地に建てられた。そこは艦砲射撃が届かないと思われる場所であった。

望楼が標的に

五稜郭内に箱館奉行所が置かれたのが一八六四（元治元）年。約二〇〇人が働き、五稜郭の北側には彼らとその家族が生活する屋敷群も設けられた。

五稜郭の不思議な点は、砲撃戦に備え、土塁は地を這うように低く設計されていたにもかかわらず、外国船を監視するためか、高い望楼が建てられたことだ。この造りでは大砲の標的になってしまう。

届かないと思った射程距離だが、武器の進歩により、箱館戦争の時には、箱館奉行

艦砲射撃の射程外のはずが…



五稜郭内箱館奉行所（函館市中央図書館所蔵）
中央の望楼が砲撃の格好の標的となった

所の高い建物が新政府軍の艦砲射撃の標的となった。旧幕府軍は慌てて望楼部分を撤去したが、時すでに遅く、かなりの精度で次々と着弾したという。

四稜郭

結局、明治新政府に抵抗する榎本武揚ら旧幕府軍が一八六八（明治元）年十月二十六日、五稜郭を占拠。翌年五月十八日の箱館戦争終結までの拠点となった。

ちなみに函館市には、五稜郭から北東約三キロ、市街を一望できる陣川町の台地に、四角い形をした四稜郭もある。東西約一〇〇メートル、南北約七〇メートルの範囲に土塁が巡り、その周囲には深さ一メートルほどの空濠が掘られている。

箱館戦争の際に旧幕府軍が、新政府軍との主戦場になることを予想し、渡島平野南端のおさえとして昼夜兼行、わずか数日で

建てた西洋式の城郭といわれているが、五稜郭から北東に向かって「東照宮」「四稜郭」と線が結ばれることから、どうやら東照宮を守るために築かれた城郭というのが真相のようだ。

この四稜郭は、一八六九年五月十一日、新政府軍の攻撃を受け、わずか数時間の戦闘で陥落し、旧幕府軍は五稜郭へと敗走。結局東照宮も砲火を受け、灰燼に帰す結果となった。

箱館戦争後、五稜郭はほとんど取り壊されたが、一九一四（大正三）年からは公園として一般に公開されるようになり、観光客に人気の函館の観光スポットとなっている。また四稜郭もかなり荒廃がすすんでいたが、一九三四（昭和九）年に史跡に指定されて以来、市民の手厚い保護を受け、その原形を今日も保っている。



箱館戦争図幅〔部分〕（函館市中央図書館所蔵）
五稜郭と当時の権現台場（東照宮）、新五稜（四稜郭）の位置関係、軍艦の配置が分かる

あうるの杜

札幌大学教授
本田優子さん

Interview

アイヌ文化の研究を行いながら、将来を見すえ、その担い手を育成している本田優子さんのあうるの杜です。

二風谷で思っていたこと

私は大学を出てから一二年間平取町の二風谷で暮らし、萱野茂先生が立ちあげた二風谷のアイヌ語教室に関わっていました。二風谷の子どもたちにはそういう場所が提供されていたのですが、他の地域の子どもたちは自分たちの文化を学ぶ機会がほとんどなくて、何を誇りにすれば良いのか分からない状態でした。だからアイヌ語文化を学ぶ機会が必要だと、二風谷時代に思っていました。

当時北海道が行った「アイヌの生活実態調査」によると、アイヌの若者たちの大学進学率は北海道平均の半分以下でした。多くが経済的な理由です。私はそれがすごく悲しくて、なんとか子どもたちを大学に行かせてあげたいなとも思っていました。

二〇〇五年に札幌大学の教員となり、アイヌの歴史や文化、言葉などを学生たちと勉強し、それを教えることはとても幸せだったんで

アイヌ文化の価値に気づけば北海道は変わる



本田優子

ほんだ ゆうこ

石川県金沢市生まれ。札幌大学教授・文学博士。専門はアイヌ文化論・アイヌ語・アイヌ史など。1983年北海道大学文学部卒業後、平取町二風谷に移り住み、二風谷アイヌ文化資料館長の萱野茂さんの助手としてアイヌ語を学びながら過ごす。2005年札幌大学文学部助教授として着任。2009年女性初の学部長となる。2010年アイヌ文化の担い手を育成する「ウレシバ・プロジェクト」を立ち上げ、アイヌの学生に対する奨学金制度を創設。アイヌの学生もアイヌではない学生と一緒にアイヌ文化を学ぶ「ウレシバクラブ」を結成する。2011年からは副学長を務めた。

突然考えが

すが、三年ぐらい経って、「これでもいいのかな？」と思うようになったんです。

教員になってまだ四年も経たないうちに、突然文化学部長に選ばれました。あり得ないと思ったのですが、「学部長でなければできない大事なことをやれという啓示かもしれない。私は何をやればよい

んだ」と自分に問い続けました。

すると、忘れもしません、二〇〇九年二月二日に、突然「奨学金を出してアイヌの若者たちをウチの大学に入れる。だから学費の心配をしなくても大学生になれる。そしてちゃんとアイヌ文化を勉強してもらい、次の時代のリーダーとなるような若者を育てる」というウレシバ・プロジェクトの構想が頭の中に降臨してきました。「あー、これって二風谷にいた時にずうっと願っていたことだったな」と、後で気づきました。

どうしてアイヌの学生だけが、というバッシングもありましたが、ウチの一般学生が多様性を身につけることができるプロジェクトで

もあると説得し、二〇一〇年に札幌大学ウレシバクラブがスタートしました。

国内外で協定

今年二月に三重県松阪市の「武四郎まつり」にウレシバクラブがご招待いただき、行ってきました。そうしたら松阪市の竹上市長さんが、「これからは毎年ウレシバクラブだ」とすごく気に入ってくださいました。それで武四郎や北方史、アイヌ文化のことなどをもっと協力していきましようということになりました。

海外の先住民族との交流もたくさん行って来ました。二〇〇九年、ユネスコが世界の危機言語調査を行ったところ、アイヌ語と同じように、ハワイ語も消滅寸前で最も深刻度が高かったのですが、見事復活し、今ハワイではハワイ語が公用語になっています。

一九八三年にハワイ語を勉強したハワイ大学の学生たちが「自分の子どもをハワイ語で育てる」と宣言して幼稚園をつくり、すべてハワイ語だけでやっただけです。そこを卒園した子どもたちが成長し、その人たちの子どもが幼稚園に行く時代になり、ハワイ語は完全に復活しました。それを学生たちに教えたくてハワイで研修を行った

んですが、そのことによってハワイ大との関係が強くなり、ウチの大学と交換留学の協定を結ぶことになりました。

今ハワイ大は日本の大学が一番協定関係を結びたい大学です。なぜかというと、みんなハワイに憧れますし、ハワイ大に入るののはレベルが高くて難しいけれど、交換留学生としてなら行くことができるからです。それで人気なんです。ハワイ大は最近、協定校の数が多すぎるということで、切ったりもしている。だからウチの大学との協定は無理だと思ったのですが、ウレシバでアイヌ文化をやっている学生ならということで協定を結ぶことができました。

今後はハワイだけでなくニュージーランドのマオリなど先進的に頑張ってきた海外の先住民族に学びながら、アイヌ文化を次のステージに引き上げていこうと考えています。

北海道民の多くが「アイヌ文化はすごいよ。北海道の最大の価値だよ。そのために税金を使うなら当然だね」というところまで持ってきていたい。そのためにはみんなにアイヌ文化を勉強してもらわないと……。私がいい見本ですが、アイヌ文化は勉強すれば絶対好きになりますから。

「日本語の恩恵」

私たちは、漢字・ひらがな・カタカナを何気なく使っている。日本語を書いているが、ひとつの文章を複数の文字で同時に表す言語は、漢字とハングルを使う場合の韓国語を除けば、世界で日本語だけです。その韓国語も、最近ではほとんど漢字を使わなくなりました。北朝鮮も漢字を一切使わないので、複数の文字を使うのは事実上日本語だけということになります。

世界の言語はそれぞれ種類の文字しか持っていない。英語だったらアルファベットだけです。

しかし、私たち日本人は三種類の文字を組み合わせてただでなく、「かなしい」という言葉を、「悲しい」と表記したり「哀しい」と書いたり、わざとひらがなで「かなしい」と書いたりして、同じ言葉を書き分け、ニュアンスの違いを出すことにしています。

みなさんは小学校のとき、掛け算の九九を、「ににがし」「にさんがろく」というようにリズムをつけて、語呂合わせで覚えたと思います。日本史でも、平城京遷都の年を「なんと（七〇年）美しい奈良の都」とか平安京遷都の年を「鳴くよ（七九四年）ウグイス平安京」などと暗記したものです。

こんなことができるのも、日本語が数字の「一を「ひと」と読んだり「い」と読んだり、「二を「に」や「ふた」と読んだりすることができからです。こんな芸当は、日本語以外の言語ではチョンと難しいでしょう。

日本人が買い物の金額を暗算で出したり、歴史の年号を簡単に言えたりすることに外国人はビックリしますが、私たちにとっては別段特別なことではありません。

それは日本語のお蔭であり、その恩恵を無意識に受けているからです。日本語に感謝ですね。

O W L I N F O R M A T I O N

彫刻のようなフォルムの椅子の美

FINN JUHL

織田憲嗣・著
定価:本体4,000円+税

デンマークを代表する家具デザイナー、フィン・ユールの作品122点を写真家・塚田直寛氏の洗練された世界観で撮影。高精細で質感の伝わる作品集ができました。

フィン・ユールは曲面を活かしたフレームを特徴とする作品を制作。近年、再び評価が高まっています。本書では椅子研究家である著者のコレクションから椅子や日用品を収録。巻末には作品リストのほか、北欧デザイン史、年譜などを収録しています。



中西出版
A4変形判、162頁
2019年9月刊行

三浦綾子が描いた景色を辿る

愛のまなざし

三浦綾子の舞台を旅する
石井一弘・写真・文
定価:本体1,200円+税

『氷点』『塩狩峠』など人間の本質を深く問うた作品を発表し続けた作家・三浦綾子。その舞台となった土地を丹念に辿り、作品に表現された風景を撮影し続けている写真家が石井一弘さんです。

10年前、三浦綾子の没後10年を期して出版した写真集『小さな口バ』に始まった写真家の巡歴の続きを、20年目の今回は著者の写真と筆から構成。三浦綾子が作品に向けたまなざしを感じさせるフォトエッセイです。



中西出版
四六判、128頁
2019年9月刊行

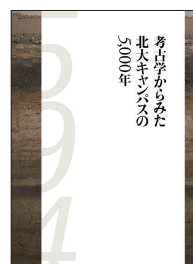
ようこそ、北大の「地底世界」へ

考古学からみた北大キャンパスの5,000年

江田真毅、小杉康・編著
定価:本体1,200円+税

明治9年に札幌農学校として開校して以来、北海道の学びの中心的役割を果たしてきた北海道大学。その札幌キャンパスのほぼ全域は「埋蔵文化財包蔵地」、つまり遺跡に指定されています。

本書はキャンパスの「地底世界」に残る、約5,000年に及ぶ人々の生活の痕跡や出土品を地図とともに紹介。縄文文化期、擦文文化、さらにアイヌ文化へと展開されていくもう一つの北大を探索するきっかけとなる一冊です。



中西出版
A5変形判、96頁
2019年7月刊行

未完の表現と向きあう画家の詩集

カロートの中

佐藤武 詩集
佐藤武・著
定価:本体1,500円+税

北海道を代表する画家である著者が、絵画同様に表現を追求してきた詩をひとつのかたちにまとめた。

「空白の領域から、深い精神的な糧の中から、言葉となり生まれてくる」という詩の数々には、あえて不安定に身を置き、作家として真実を探し求める姿勢があらわれている。誰もが辿り着く場所を見えながら、未完の表現に向き合い磨き上げられた48編の詩は、どこか寂寥感漂う作品となっている。



中西出版
A5判、144頁
2019年8月刊行

コミック・オペラ継承者の魅力を分析

ヴォルフ＝フェラーリ オペラの世界

オペラ作品分析
岡元敦司・著
定価:本体3,000円+税

近代イタリアの作曲家、エルマンノ・ヴォルフ＝フェラーリのオペラ作品の特徴と魅力を、音楽家でもある著者が故郷イタリアでの取材・調査や資料から分析し解説。

ドイツ人の父とイタリア人の母のもとに生まれ、両国の間を行き来した波乱に満ちた生涯と、代表作『スザンナの秘密』の作品分析を中心とした音楽研究から、コミック・オペラの継承者の姿に迫ります。巻末に『スザンナの秘密』の対訳・解説付き。



中西出版
A5判、190頁
2019年8月刊行

明治維新を生きた青年の志と挫折

青年公家・清水谷公考の志と挫折

箱館裁判所・箱館府創設と箱館戦争の狭間
北国諒星・著
定価:本体1,700円+税

慶応4年、明治新政府のもと20代前半の若者が箱館府総督として着任しました。その青年、清水谷公考は五稜郭を引き継ぎ蝦夷地開拓を目指しましたが、資金不足や襲撃事件などの苦難の末、箱館戦争が勃発。五稜郭を退き、箱館脱出を余儀なくされます。

旧幕府側から語られることの多い箱館戦争直前から戦後、開拓使創設までの出来事を、若き公家の行動を通して明治新政府の立場から再検討する新たな試みです。



北海道出版企画センター
四六判、235頁
2019年3月刊行

